

図書館だより

夢で逢えたら

図書館長 村田 和穂



夢でもし逢えたら素敵なことね、あなたに逢えるまで眠り続けたい（大瀧詠一）

あなたは夢を見ますか？ 私はよく夢を見ているような気がします。〈気がする〉というのは、見た夢の多くは時間が経つと忘れてしまうからです。記憶に残るのは、大抵は後味の悪い夢です。私には年に一度は見る〈悪夢〉があります。それは自分が学生—大学5年目の学部生—に戻っている夢です。ある科目の単位を取らないと卒業できないのに欠席がちで、その日の授業も何故か出席できずに、「ああ、今年も留年か」と落胆する夢です。目覚めた時は安堵するというよりも、自分は本当に大学を卒業しているのだろうか、としばらく自問します。夢の世界が現実で、目覚めた世界が幻なのではないかと思えるのです。〈留年〉や〈卒業不可〉のようなことでさえも後々までトラウマのように当事者に付きまとうのですから、戦争などで意に反して人の命を奪ってしまった人が見る夢はどのようなものなのでしょう。映画やTVドラマで、そのような過去を持つ主人公が悪夢にうなされて目覚める場面を見たことがあります。映画といえば、『インセプション』（2010年）は私にとって衝撃でした。この映画は、一言でいえば、〈夢を見ている時、私達はそれを現実と思っている〉ことを映像化した作品です。夢が潜在意識と関係がある（らしい）のは誰もが多かれ少なかれ理解していることですが、この映画で特に印象的なのは、夢の中の主人公がエレベーターで1階ずつ下に降りていく描写です。これは意識には階層があり、最下層の〈地階〉には本人の最も嫌な記憶、すなわち〈恐怖〉が貯蔵されている、という分かりやすい比喻になっていました。

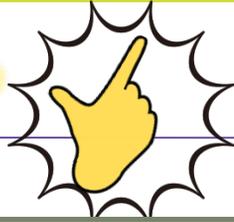
前置きが長くなりましたが、本科2年の前期に開講している「課題研究I」で今年度は『ハムレット』を読む〉に取り組みました。『ハムレット』はシェイクスピアが書いた最も謎に満ちた戯曲（芝居の台本）です。授業では、受講生12名が毎回くじで配役を決め、俳優が演技する前のセリフの読みあわせのように、この作品（翻訳）を音読して全編を読み上げました。『ハムレット』といえば、“To be or not to be, that is the question.”で始まる3幕1場の主人公ハムレットによる有名な独白があります。私たちが使用したテキスト（角川文庫：河合祥一郎訳）では次のような日本語になっています：「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ。（中略）死ぬことは一眠ること、それだけだ。眠りによって、心の痛みも、肉体が抱える数限りない苦しみも終わりを告げる。それこそ願ってもない最上の結末だ。死ぬ、眠る。眠る、おそらくは夢を見る—そう、そこでひっかかる。」デンマークの王子ハムレットは尊敬していた父が亡くなり（実際は叔父に殺害され）、その直後に最愛の母が叔父と再婚したこともあって世をはかなみ、自死を考えます。いっそ死ねば楽になるのに、と。しかし、仮に〈死〉が〈眠り〉であるならば^{（注）}、必ず〈夢〉が付きまとうはず。だとしたら、その夢が〈悪夢〉の場合、自死は何の救いにもならないとハムレットは思い悩むのです。このように悩みながらも、ハムレットは生きることを選びます。そして叔父が彼の暗殺を企んでいることを知りながら、「雀一羽落ちるのにも神の摂理がある。（中略）なるようになればよい (Let be)」という心境に達するのです。ハムレットの生と死の葛藤と「死＝眠り（＋悪夢？）」の論理的思考は、現代の悩める私たちに生きる上でのヒントを与えてくれるように思います。

もちろん〈夢〉には悪夢ばかりではなく、時には心をときめかせ、目覚めた時「もっと続きが見たかった」という類の夢もあります（私もたまには見るようです）。今回は少し重いテーマだったので、解毒剤の意味でも、表題に挙げた「夢で逢えたら」という素敵な歌を聴きながらお別れとします。ところで、大ヒットした映画『タイタニック』（1997年）のラストシーンを覚えていますか？ タイタニック号の沈没で生き残った、年老いたヒロインが最後に見る夢は単なる〈夢〉なののでしょうか、それとも・・・あなたはどうか解釈しますか？

（注）私たち日本人も死を「永眠」と婉曲的に表現したり、故人に「安らかに眠りください」と言葉をかけるのは興味深い現象である。



私のイチオシ



一般教育科

竹本 仁美 先生

『TSUNAMI 津波』（高嶋 哲夫 著）
『死都日本』（石黒 耀 著）



2024年8月8日夕方、日向灘沖で地震が発生しました。夏休みが始まってすぐ、少しホッとした気持ちになっていたところに、やけにゆったりとした不気味な揺れを感じた人も多いのではないのでしょうか。この後すぐに「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表され、日本中が1週間の警戒状態に入りました。私は、「ついに南海トラフが動き始めたのかな」と思い、少し緊張した1週間を過ごしていました。ちょうど、「図書館だより」の＜私のイチオシ＞を執筆する機会をいただいていたので、これを機に、地球の内側から働く力（内的営力）が自然災害となって現代に生きる私たちを襲った時、何が起こるのかを具体的に想像させてくれる本を紹介したいと思います。1冊目は高嶋哲夫著『TSUNAMI 津波』です。この本は、海溝型地震の一つとして知られる南海トラフ地震をテーマに描かれており、東日本大震災が起こる6年も前に出版されました。この本には、2011年3月11日に東北地方を中心とする広い範囲で実際に起こったことにとっても近いことが書かれています。過去の記録やデータを正しく理解し、丁寧に紐解いていくことで、将来起こりうる被害についてここまで具体的に想像できるのか、と驚かされます。

2冊目は石黒耀著『死都日本』です。この本は、九州南部に位置する霧島連山の破局的噴火をテーマに描かれています。この本で描かれているほどの大きな噴火は、日本の歴史記録にはありません。しかし、人間の記録が残される前から、日本列島はこれまでに何度もこのような大きな噴火を経験しています。1冊目と同様、自然が残した過去のデータから想像できることがたくさんあることがわかります。

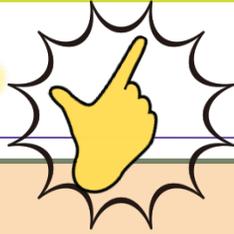
いずれの本にも自然災害の“hazard”の部分だけでなく、人間の影響が深く関わる“disaster”の部分がよく描かれています。海溝型地震や破局的噴火のような、巨大な災害に見舞われた時、どんなことが問題になるのか、どんなことが優先されるのか、さまざまな視点で描かれています。南海トラフの地震は、有明海沿岸で生活をしている私たちにとっては「他人ごと」と感じられるかもしれませんが、しかし、直接の揺れや津波による被害が小さい地域で暮らしているとしても、大きな自然災害は回り回って自分たちの身近なところにも影響を及ぼしてくるのです。日本で大きな災害が発生した時、私たち一人一人は何を知り、どのように考え、判断し、行動すべきなのか、考えるきっかけをくれる本だと思っています。

南海トラフの地震が身近に感じられる今こそ、ぜひ読んでみてください。南海トラフの地震について特別な注意を呼びかける期間は終了しましたが、この期間はあくまで人間が勝手に決めたものです。「そなえよ つねに」を私も改めて肝に銘じたいと思います。

*「そなえよ つねに」：ボーイスカウトの理念



私のイチオシ



一般教育科

下川 涼太 先生

『はじめての第二言語習得論講義 —英語学習への複眼的アプローチ』 馬場 今日子/新多 了 (著)



村田先生から、＜私のイチオシ＞に寄稿する機会を頂きましたので、現在の自分の礎ともなった本を紹介することにします。

私の研究テーマは、WTC (Willingness to Communicate in L2: 第二言語におけるコミュニケーション意欲) にかかわるもので、応用言語学ならびに第二言語習得論の分野のトピックです。実は、大学の学部時代は、英語圏文化学を専攻しておりました。現在の研究とは違って、当時はシェイクスピアを研究している教授のもとでイギリス文化を勉強していました。ところが、私のいた大学には選択必修科目というものがあって、これによって私は、必修や専門の科目とは違う、自分の専門とはかけ離れた科目をとることになりました。そのおかげで、私は、ここで紹介する本と出会うことになりました。入学したばかりの身としてはイギリス文化に興味があって大学を選んだわけですから、このシステムにもどかしさを感じた記憶があります。

しかし、思わぬ結果を招きました。100人以上の学生が受講する大講義室での授業にもかかわらず、初回の授業から担当の教授に好かれ（いや、おそらく、目をつけられた、というのが正確でしょう）、それ以降、ほぼ毎回、皆の前で、前回学んだことを発表するタスクを仰せつかったのです。元来負けず嫌いな私は、その日から、この授業で使われた本、馬場今日子・新多了著『はじめての第二言語習得論講義』（大修館書店、2016年）を熟読するようになりました。そうすると不思議なもので、どんどんこの研究テーマに惹かれ、学期が変わった後もその教授が開講している授業を片端から受講し、質問攻めにしたこともあります。それが功を奏して、その先生は私が大学院に進学する際に推薦状を書いてくださり、今でも連絡を取り合い、名古屋に帰ると、よく食事に連れて行ってくださいます。

さて、前置きがだいぶ長くなりましたが、この本の中身について紹介していきたいと思います。応用言語学における第二言語習得論は、母語以外の言語、つまり第二言語や外国語をどのようにして人々が学び、習得していくのかを研究する学問分野です。この分野は、言語そのものだけでなく、人間の認知、心理学、教育学、社会文化理論など多くの分野と交差している、非常に学際的なものです。また、研究分野として歴史が浅く未発見な部分が多くロマンがたくさんあるのです。私がこの本の中で特に好きなトピックは、外国語適性や動機づけですが、言語教育、教授法の歴史、母語と第二言語の関係性なども扱っています。多種多様なトピックがありますから、飽きることなく読むことができると思います。私がこの本を皆さんに紹介する一つの理由は、第二言語習得論が言語の獲得に限らず、スキル一般に関して、新しいスキルをいかにして獲得するのかという問題を考える際に大いに役に立つからです。例えば、部活動での新しい練習メニューを試したり、新しいテスト勉強の方法やアルバイトでの接客の仕方を学ぶなど、皆さんの生活の身近な部分で、第二言語習得論はずいぶん助けとなることもあると思います。（残念ながら、大学院時代の恩師曰く、パートナーとの仲直りの方法には応用できなさそうだとのことでしたが。）

最後に、第二言語習得研究についての説明で、私はあえて「効率的」という言葉を使いませんでした。新しい言語やスキルを獲得するにあたって「効率的」であるというのが望ましく思われるかもしれませんが、人間が新しいことにチャレンジする際には、失敗や挫折は避けて通れないからです。さらに言えば、その経験がきっかけとなり学習効果が高まることもあるからです（創発・相転移）。また、きっかけというのは、いつどこで出会うかわからないものです。私がこの本と出会ったことで今有明高専にいるように、この本が皆さんのなにかしらの「きっかけ」になることを願っております。



図書委員のおすすめ本



各クラスの図書委員にみなさんに薦める1冊を選んでもらいました。
新着コーナーに置いてありますので、ぜひ手に取ってみてください。

1年1組
成富 萌華さん

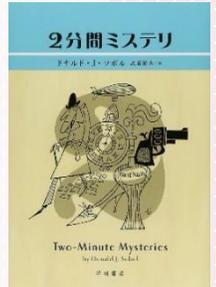
『人間みたいに生きている』
佐原 ひかり 著



貴方にとって【食事】とは談話の時間、美味しいものが食べられる時間。それとも、体重が増えてしまう、会食が苦手など【苦痛な時間】どちらに当てはまりますか？食事ができることは当たり前なのでしょうか。貴方には乗り越えていくことができますか。

『2分間ミステリ』
ドナルド・J・ソボル 著
武藤 崇恵 訳

銀行強盗を追う保安官が拾ったヒッチハイカーの正体とは？屋根裏部屋で起きた、首折り自殺の真相は？一攫千金の儲け話の真偽は？
制限時間は2分間、きみも名探偵ハレジアン博士の頭脳に挑戦！事件を先に解決するのはきみか、博士か？さあ、謎を解け！



1年2組
井上 智寛さん

『世界から猫が消えたなら』
川村 元気 著

もしも明日、死んでしまうことがわかったら。あなたの目の前に悪魔が現れます。自分と同じ姿の。電話、映画、時計、猫、自分の好きなものを次々と消していく背景には大切な人たちとの思い出が。わかりやすく豊かな表現が多いので、あっという間に読み上げてしまう作品です。



1年4組
長野 心春さん



『体育館の殺人』
青崎 有吾 著

「キャアア」という叫び声が体育館に響いた。まさか、この平和な学校で殺人事件が起きたのか!?犯人は誰なのか、どのように殺したのか、その動機はなぜか、最後はどうなったのか、ハラハラする内容からは目が離せない……その結果は皆さんの目で確認してください！

1年5組
東 龍喜さん



『君の臍臓をたべたい』
住野 よる 著

タイトルを見ると少し不気味な感じがしますが、全然不気味な小説ではなく感動できるお話です。読んだ多くの方が結末に「え。」ってなると思います。人生どこで何が起こるか分かりません。一秒一秒大切に生きていこうと思える作品だと思います。ぜひ読んでみてください。

2年1組
宮崎 太陽さん

『星座の探し方と神話わかる
星座の図鑑』
沼澤 茂美/脇屋 奈々代 著

皆さんは「星座」と聞いて何を思いますか？「探すのが大変...」「探し方とか訳わかんない...」そんな悩みはこの『星座の図鑑』で解決できます。四季の夜空と南半球の夜空や星座、見応えのある天体、流星群の時期などが書かれているこの本で、夜空の面白さを探してみませんか？



2年2組
福田 理紗さん

『本を愛した彼女と彼女の本の物語』
上野 遊 著

この作品は、少女と、少女が心の支えにした「本」の物語です。一冊の本との出会いが、少女の人生を変える大きなきっかけになります。そんな少女と本の日々の物語が、「本」の視点で語られている、心に刺さる作品です。ぜひ、本に苦手意識のある人には読んでほしい一冊です。



2年3組
松田 桃佳さん



『そして、バトンは渡された』
瀬尾 まいこ 著

皆さんが思う「家族」とは一体どんなものですか？この本の主人公である優子は大人たちの都合によって5人の継父継母の間をリレーされてきましたが、それぞれの親に沢山の愛情を注がれ、優子自身もそれぞれの親を愛してきました。血の繋がりでない家族愛をぜひご覧下さい！

2年4組
山路 にこさん

『七つの海を照らす星』
七河 迦南 著

この本は児童養護施設施設を舞台に保育士の主人公がちょっとした謎や問題を解決していく話です。この話では普段自分たちにはあまり関わりのない児童養護施設の法律や条例などがトリックとなっており、とても興味深く、どんどん読み進められます、ぜひ一度読んでみてください!!



2年5組
久保 夏輝さん



『屍人荘の殺人』
今村 昌弘 著

ある夏合宿に参加するために紫湛荘を訪れた葉村、明智、そして探偵の剣崎。そんな中異常事態に遭遇し紫湛荘に立て籠もりを余儀なくされます。そこで起きる連続殺人、葉村たちは絶望の状況を生きのびることはできるのか！奇想と本格ミステリが融合したミステリー小説です。

3年エネルギーコース
木村 匠さん



『こころ』
夏目 漱石 著

主人公は鎌倉で出会った一人の男性を「先生」と呼び慕った。しかし彼は、なかなか主人公と打ち解けようとせず、そのまま死んでしまった。その後、先生から主人公宛に手紙が届く・・・先生の過去と複雑な人間関係、これらを通して人間とは何なのかを考えてみてください。

3年応用化学コース
田中 北斗さん

『本好きの下剋上』
香月 美夜 著

本が大好きな主人公はある日、本棚の下敷きになって死んでしまう。次に目を覚ましたのは識字率が低く、本が少ない世界。本がないならどうする？自分で作ってしまえばいいじゃない！様々な困難にぶつかりながらも何とか本を作ろうと奮闘する主人公から目が離せません！

3年メカニクスコース
吉永 葵さん



『線は、僕を描く』
砥上 裕将 著

この本は、孤独を感じたことのある人に是非読んで欲しい1冊です。孤独と哀しみの中でもがいていた「僕」は、水墨画を通して人々と出会い、心にぬくもりを取り戻していきます。読めばきっと、苦難に立ち向かう主人公の姿にあなたも心揺さぶられることでしょう。

3年情報システムコース
住 彩乃さん



『流浪の月』
風良 ゆう 著

公園で出会った10歳の少女と大学生の男が、誘拐犯とその被害者になって、15年後に再会する物語です。目に見えているものが全てじゃないこと、善意は悪意にもなり得ること考えさせられる物語です。風良ゆうさんの繊細で時にドキッと核心を突く素敵な表現を堪能して下さい！

3年建築コース
古野 陽向さん

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著
内藤 濯 訳



『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ 著
内藤 濯 訳

星の王子さまがサハラ砂漠に不時着した孤独な飛行士に様々なところで体験したエピソードを通して、本当に大切なものは何かと問いかけます。今自分自身や自分の身の回りのことについて、考え直せるような本です。ぜひ読んでみてください。

4年エネルギーコース
奥村 俊太さん

『容疑者Xの献身』
東野 圭吾 著

東野圭吾と言えばやはりこの作品。直木賞受賞作であり映画化も話題を呼んだガリレオシリーズ第3弾です。この作品に登場する石神・湯川の2人の天才による攻防戦は決着が全く読めず、終始ハラハラしながら読み進められます。ミステリー好きにはぜひ一度読んで頂きたい一冊です。



4年環境生命コース
吉岡 美乃里さん



『生き物の死にざま』
稲垣 栄洋 著

この作品は、儚くも、懸命に生きようとする生き物の「死に様」を描いたエッセイです。作品の中では様々な生き物の死に様を描かれています。時に残酷で、だからこそ美しい生き物の死に様を感じるこの作品をぜひ、手に取ってみてください。

1年3組
川原 龍也 さん

『夜は短し歩けよ乙女』
森見 登美彦 著

皆さんは「電気ブラン」を知っていますか？何かの機械か、照明か、と思われる人も多いでしょう。なんとこれはお酒なのです。いくつもの短編から「私」と「彼女」の2つの視点で繰り広げられる不思議な夜を感じてみませんか？



1年5組
新多 悠菜 さん



『52ヘルツのクジラたち』
町田 そのこ 著

52ヘルツの声を奏でる主人公が1人で穏やかに過ごしたいと大分の田舎の町へ逃げ込む。その町で同じように52ヘルツの声を奏でる少年に出会い、主人公の壮絶な過去が明かされていく。面白かったのでぜひ読んでみてください。

4年建築コース
龍 陽咲さん

『アーモンド』
ソン・ウォンピョン 著
矢島 暁子 訳

2020年本屋大賞翻訳小説部門第1位。生まれつき脳の扁桃核(アーモンド)が小さく、感情が分からない少年、ユンジェの物語。感情を教えようとした母や可愛がってくれた祖母、そして感情の激しい暴力的な少年ゴニとの出会いを通して彼の人生は少しずつ変化していく。



5年環境生命コース
坂上 結泉さん



『白夜行』
東野 圭吾 著

『白夜行』は、光の当たらない人生を歩む二人の悲劇的な運命を描いた作品です。愛と憎しみが交錯する物語に心を揺さぶられ、暗闇の中で生きる彼らの孤独と葛藤が深く印象に残りました。

4年メカニクスコース
佐藤 響 さん

『薬屋のひとりごと』
日向 夏 著

舞台は様々な闇を取り巻く中国の後宮。主人公、猫猫は下女として薬師の毒とも薬ともなる知識を活用し後宮で次々に起こる、不可解な事件を解決していくことに。事件の解決だけでなく、恋愛、ギャグ要素も兼ね備えた「ミステリー&ラブコメディ」です。



1年4組
木戸 心結 さん



『よるのばけもの』
住野 よる 著

毎夜「ばけもの」に変身する主人公の安達は、いじめられっ子の矢野と交流を交わしていく中で、少しずつ普通の学校生活に「不思議」を抱くようになる。クラス内のいじめに対し、『本当の自分とは』その答えに苦悩する日々を描く一冊。1歩前に進む勇気を与えてくれる作品です。

4年情報システムコース
緒方 漣 さん

『告白』
湊 かなえ 著

ある中学校の女性教師である森口が娘を失った復讐を描いた衝撃的なミステリー。複数の視点から展開される物語は、人間の内面に潜む闇と、罪の連鎖を鮮烈に描き出す。巧妙に仕組まれたストーリーが読者を最後まで引き込む名作です。



5年エネルギーコース
馬場 隼さん



『カミサマは そういない』
深緑 野分 著

ゾットするような話が7作品収録された短編集です。生々しく、時にスリリングな描写にあっという間に引き込まれてページを捲る手が止まらなくなります。現実感のある話からSFのような話まで様々な世界観が楽しめます。少しでも気になった方はぜひ手にとって最初の話だけでも読んでみてください。

5年メカニクスコース
林 和樹 さん

『空想科学読本6』
柳田 理科雄 著

皆さんが小中学生の時に読んできたと思われるこの本は、柳田理科雄によるシリーズで、アニメやマンガ、特撮の設定を科学的に検証し、現実世界で実現可能かどうかをユーモアたっぷりに解説する本です。非現実的な設定に科学の視点から突っ込みを入れる独特の切り口が魅力です。



5年情報システムコース
宇木 崇馬 さん

ブックハンティングを開催しました！

ブックハンティングとは、学生自身が書店に出向いて、図書館に置きたい本を選定するイベントです。毎年参加希望者を募り、実施しています。今年度は8月17日（土）に丸善博多店で行い、8名の学生が参加しました。広い書店の中を自由に見て回り本を選ぶことができました。下の一覧にもあるように小説や物語が多めでしたが、それ以外にも様々な分野から選んでもらっています。とくにおすすめのものは、参加学生のPOPとあわせて展示されていますので是非手にとってみてください。



私自身も教員の仕事に就いてからは書店を見ると立ち寄るようになりましたが、毎回専門書や自分の気になるコーナーをさっと確認する程度です。今回のブックハンティングではゆっくりと書店全体を見て回る時間をいただきました。世の中にこんなに多くの本があり、たくさん読めたら素晴らしいだろうと思うと同時に、これまで読書をしてこなかったことを振り返り残念な気持ちにもなりました。参加した学生が素直に本を手にとり、あっという間に何冊もの本を選ぶ姿には感心させられました。私もこれに刺激を受け、読書を楽しむ時間を作ろうと思います。



（図書館運営室・室員 田端）



ブックハンティングで購入した本は、図書館特設コーナーに展示しています♪



==ブックハンティング一覧==

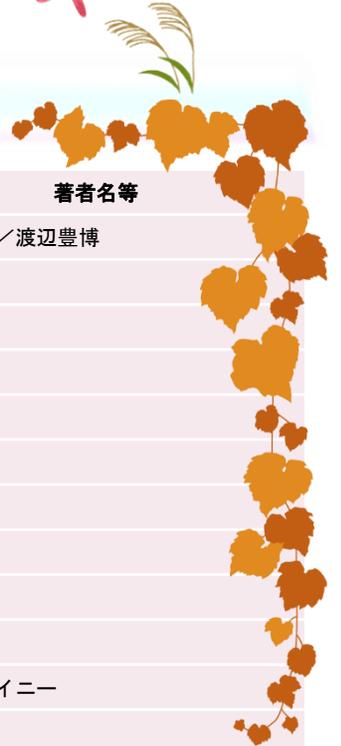


タイトル	著者名等
頭がいい人のChatGPT&Copilotの使い方	橋本 大也
なるほど!Copilot活用術 ～Windows、Microsoft365の仕事が劇的に変わるAI使いこなしのヒント～(ゼロからはじめる)	マイカ
またね家族(講談社文庫 ま82-1)	松居 大悟
反逆せよ!愛国者たち～暴力社会からの伝言～	猫組長
明智恭介の奔走	今村 昌弘
お前の死因にとびきりの恐怖を	梨
全員犯人、だけど被害者、しかも探偵	下村 敦史
霧をはらう<上>(幻冬舎文庫 し-11-11)	雫井脩介
霧をはらう<下>(幻冬舎文庫 し-11-12)	雫井脩介
兇人邸の殺人	今村 昌弘
嘘つき姫	坂崎 かおる
今さら聞けない!政治のキホンが2時間で全部頭に入る	馬屋原吉博
少年が見た戦争～私の戦中・戦後体験記～	井原 浩
サイパン戦車戦～戦車第九連隊の玉砕～ 新装解説版	下田 四郎
近畿地方のある場所について	背筋





==ブックハンティング一覧==



タイトル	著者名等
富士山を壊すのは誰?～「富士山登山鉄道構想」が観光立国日本をダメにする～	村串仁三郎/渡辺豊博
北朝鮮は今も日本人を拉致していますか～決定版～	中村将
ただ、それだけでよかったんです完全版	松村 涼哉
高校事変<20>(角川文庫 ま26-627)	松岡 圭祐
遺跡発掘師は笑わない<[19]> マルロの刀剣	桑原 水菜
テトラド～統計外暗数犯罪～<2>	吉上 亮
モノノ怪鬼	仁木 英之
人獣細工 改版	小林 泰三
くらのかみ	小野 不由美
デッドマンスイッチ～警視庁トリタテ係～	幸村 明良
魔女と猟犬<1>	カミツクレイニー
きみのお金は誰のため～ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」～	田内学
「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか? ～認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策～	今井むつみ
瞬時に「言語化できる人」が、うまくいく。	荒木俊哉
にゃんこ刑法～現役弁護士作家がネコと解説～	五十嵐 律人/多田 玲子 絵
スマホはどこまで脳を壊すか	楠浩平
ウェルテルタウンでやすらかに	西尾 維新
成瀬は信じた道をいく	宮島 未奈
負けヒロインが多すぎる!<1>～<3>	雨森 たきび
N	道尾 秀介
響け!ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部、波乱の第二楽章<前編>	武田 綾乃
響け!ユーフォニアム<2> 北宇治高校吹奏楽部のいちばん熱い夏	武田 綾乃
響け!ユーフォニアム<3> 北宇治高校吹奏楽部、最大の危機	武田 綾乃
受験生は謎解きに向かない	ホリー・ジャクソン/服部 京子 訳
3色だけでセンスのいい色～見てわかる、迷わず決まる配色アイデア～	ingectar-e
小さな名画の本	佐藤 晃子
夢の上<1> 翠輝晶・蒼輝晶	多崎 礼
どこよりも遠い場所にいる君へ	阿部 暁子
笑うマトリョーシカ	早見 和真
君と会えたから...～The Goddess of Victory～ 文庫版	喜多川 泰
仏師伊織と物語る像	浜野 稚子
世界で一番美しい名作住宅の解剖図鑑 増補改訂版	中山 繁信/松下 希和/伊藤 茉莉子/齋藤 玲香
<よりぬき>あたらしいあたりまえ。～BEST101～	松浦 弥太郎
20代を無難に生きるな	永松 茂久
「ない仕事」の作り方	みうらじゅん
その扉をたたく音	瀬尾 まいこ

※既に蔵書があったものも掲載しています。



図書館統計

令和5年利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	23	24	25	22	20	19	25	25	22	21	18	20	264
入館者総数	3,080	4,332	3,984	3,671	1,586	1,019	4,038	3,869	3,384	4,149	2,298	1,266	36,676
(内夜間)	259	546	424	539	92	0	467	631	386	573	256	0	4,173
(内土曜日)	62	75	93	145	43	0	54	237	56	69	54	0	888
1日平均	134	181	159	167	79	54	162	155	154	198	128	63	139
貸出冊数・総数	219	192	218	168	104	45	236	145	281	168	111	40	1,927
(内夜間)	32	34	36	37	7	2	14	7	10	22	24	7	232
(内土曜日)	4	3	0	9	0	0	3	2	80	5	5	0	111
1日平均	10	8	9	8	5	2	9	6	13	8	6	2	7

分類別図書貸出冊数の推移

年度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学(*1)	産業	芸術	語学	文学	多読	その他(*2)	合計
平成31(令和元)年度	41	78	24	100	151	981	5	57	42	446	108	782	2,815
令和2年度	12	52	39	62	118	534	1	25	31	202	108	442	1,626
令和3年度	20	69	39	62	128	635	3	17	41	269	104	457	1,844
令和4年度	12	69	28	43	223	610	4	21	33	347	116	561	2,067
令和5年度	62	81	24	52	170	440	7	37	44	480	48	482	1,927

*1 H27年度以降の「工学」は、007情報科学、430-439化学、460-469生物一般の貸出冊数が含まれる

*2 「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す

利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間、土曜日)	総数	(内学生のみ貸出冊数)	内夜間、土曜日	(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
平成31(令和元)年度	241	1,648	1,140	215	30	39,677	6,201	2,815	2,361	606	74	165	12	2	1.7
令和2年度	252	1,334	1,119	202	13	28,165	3,125	1,626	1,425	240	70	112	6	1.3	1.2
令和3年度	267	1,607	1,120	213	10	34,655	4,409	1,844	1,632	306	59	130	7	1	1
令和4年度	268	1,291	1,121	157	13	32,781	3,997	2,067	1,677	390	113	122	8	1.5	1.6
令和5年度	264	1,267	1,116	139	12	36,676	5,061	1,927	1,633	343	93	139	7	1.5	1.5

学年別図書貸出冊数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
平成31(令和元)年度	217	111	477	618	449	227	262	2,361
令和2年度	111	140	242	382	371	79	100	1,425
令和3年度	172	106	261	460	303	250	80	1,632
令和4年度	189	289	195	393	376	105	130	1,677
令和5年度	356	56	506	156	332	109	118	1,633

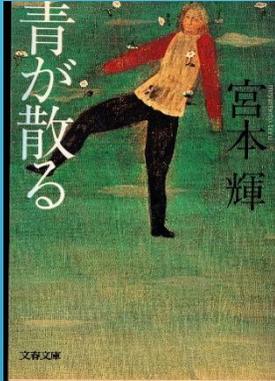
入館者数はコロナ禍から回復傾向にあるようです。
貸出冊数は少し伸び悩んでいます。



副艦長の第三艦橋航海日誌

宇宙戦艦ヤマトの艦底にある第三艦橋。海底とぶつかったり、ガミラス星の濃硫酸の海で溶けたりしていつも壊れてしまい何の役に立つかは誰も知らないが、まるでトカゲのしっぽのようにいつの間にか再生する不思議な設備。そんな第三艦橋勤務に憧れる副館長柳原がお届けする読書の海の航海日誌。

諸君、あれが
初島だよ



今年の夏はオリパラの年だった。印象に残るのは車いすテニスの小田凱人選手の決勝戦だった。もうほぼほぼ負けというところで盛り返して優勝するというドラマティックな試合であった。

この試合で思い出したのは大学生の頃に手にした宮本輝著『青が散る』という小説だ。テニス競技における孤独な選手の心の動きをかなりのページを割いて描き、当時異性からの何気ない一言で自信喪失していた青年時代の私の心に、次の二つのキーワードを勇気とともに刻んでくれた。

1. 「二流の上」は時として「一流の下」に勝る。
2. “キングスポイント”（ゲームの流れを左右する決定的瞬間）を逃すな。

この小説の主人公燎平は、受験に失敗し新設の言わば三流大学に仕方なく入学することになる。燎平はたまたま出会う同級生に誘われてテニス部に入部する。テニス部とは言っても新設大学のためテニスコートもなく、自分たちでコートを作るところから始めなければならない。土を運び、夏の灼熱の日差しの下で塩や水をまき、つるはしやローラーで整地しやっとの思いでクレイコートを作る。大学には単位を落とさない程度に出席し、あとは毎日コートに来て一人練習する日々を過ごす。

一年後、部ではインターハイ出場経験のある下級生（あだ名はポンク）を迎える。ポンクは関西ジュニアテニス界でも知られた存在でテニスに関してはいわば一流であった。インカレ出場を目標とする部にとって、この下級生はあつという間に“頼れる”部員になる。しかしポンクは自分の才能にうぬぼれるが故に練習も適当で、自分よりもテニスが弱そうな人間には横柄な態度をとり、自分よりも強そうな人間には目立たないように小さくなるような一流育ちとは思えない振る舞いを部員たちに見せるようになる。そんなポンクに手を焼く部長や仲間をしり目に、燎平は「テニスはサーブ」の信念に基づき黙々と愚直にサーブの練習を続ける。サーブ以外のテクニックは普通以下。部の友人の貝谷は燎平のテニスを二流のテニスと呼ぶ。しかしこの友人は、そんな二流のテニスであっても、時として二流の上（じょう）が一流の下（げ）のテニスに勝るのだと事例を紹介し勇気づけてくれる。そして、部の紆余曲折の結果、主人公の二流の上のテニスと下級生の一流の下のテニスが決戦することになる。

試合は、両者一步も譲らない好ゲームとなる。だが練習は裏切らない。スタミナに勝る燎平は忍耐強くポンクの技に対応しやがて試合の大方の流れを決定づけるゲームポイント、いわゆる“キングスポイント”を迎える。キングスポイントを失い心折れたポンクはいとも簡単にその後のゲームを失い、燎平はついに勝利を手繰り寄せる。

話は変わるが、かつて海外で行われた国際会議に出席したときのことである。会議の招待講演で講師の紹介がなされた。司会者が講師の非の打ちどころがない華麗な一流の経歴を“beautiful carrier”と賞賛していた。一方、そのような“映える”経歴を持たない私は、未だ学会の研究発表の場などで気おくれしてしまう。そんなときに燎平が私の背中を押してくれる。

「ぼくが愚直に追い求めたサーブのような一芸を、人とは違う道を歩んだあなたも持っているんじゃないですか？それをコートに決めてやりましょう。大丈夫、自信を持って。きっとキングスポイントを掴みとれますよ。」夏の日差しの下でひたむきにサーブを打ち込む主人公燎平を実験室で思い浮かべつつ、三流研究者の私は第一回の航海記録を閉じることにしよう。

副館長 柳原 聖

～編集後記～

今年度より図書係という新たな仕事についたのですが、毎日たくさんの本に囲まれる生活を送ることとなり、私事ですが自然と読了する本が増え、見事活字離れを解消いたしました。本誌に掲載されている先生方と学生のみなさんの本も読んでみたいです。あわただしく時間が過ぎる毎日でも、スマホと本を置き換えてみると、自分の心が落ち着くような気がしています。脳を休めるリラックスマethodとしての読書時間、心身の健康に良いようです！（脳の活性化や疲労感が軽減される可能性がある。）新しい本や懐かしい本、思い出の本をみつけられる図書館、たのしいですよ。

（図書係 馬服）

今年度4月より図書係でお世話になっております。学校での勤務は初めてで、毎日学生さんたちの楽しそうな姿に元気をもらいながら、また素敵な先生方から刺激を受けながら、とても新鮮な気持ちで勤めさせていただいています。本が好きで、子どもの頃から図書館にはよく通っていました。1冊の本が、いつもの暮らしを少し豊かにしてくれたり、人生を大きく変えてくれることもあります。日々勉強中ですが、そんな本たちとの出会いのお手伝いが少しでもできれば嬉しいです。どうぞよろしくお願いたします。

（図書係 中尾）